

平成28年度第1回環境審議会

議事録

平成28年5月19日(木)

足立区役所 12階 1202会議室

(開催概要)

平成28年度第1回環境審議会
議事録

会議名	平成28年度第1回環境審議会		
開催年月日	平成28年5月19日		
開催場所	足立区役所南館12階会議室		
開催時間	午後3時から午後5時まで		
出席状況	委員現在数 15人 出席委員数 13人		
出席委員	田中 充	百田 真史	藤沼 壮次
	ぬかが 和子	小泉 ひろし	大竹 さよこ
	小泉 俊夫	佐藤 強士	茂木 福美
	田邊 治代	長谷川 京子	古地 八重子
	石川 義夫		
事務局	環境部長、環境政策課長、ごみ減量推進課長、足立清掃事務所長、生活環境保全課長、		
会議次第	別紙のとおり		
会議に付した議題	審議事項1 第三次足立区環境基本計画の体系案の一部修正について 審議事項2 第三次足立区環境基本計画の施策体系案について 報告事項1 第二次足立区環境基本計画の取組み状況について 報告事項2 専門部会における審議経過について 報告事項3 2013年度の区内温室効果ガス排出量の算定結果について		

(会議経過と議事の要旨)

会 長	<p>もう一人出席予定の方がいるが、定刻になったので審議会を始める。</p> <p>今日の審議は2つの専門部会のご報告と意見交換を中心に行う。報告事項も何点かあるが、区内温室ガス排出状況も含まれる。</p> <p>委員定数15名、現在出席委員は12名(後刻1名参加)であり、本日の審議会が成立していることを報告する。</p> <p>本日の議事録署名人は、百田副会長と古地委員にお願いする。</p> <p>それでは、配付資料の確認を事務局からお願いする。</p>
事務局	<p>資料確認の前に新人事の紹介をさせていただく。篠木足立清掃事務所長、祖傳生活環境保全課長、よろしくお願いする。</p> <p>事前郵送資料は5点、「足立区環境審議会資料」、別添資料1「足立区基本計画平成26年度実績報告」、別添資料2「現行計画の体系」、別添資料3「第1回地球温暖化対策専門部会配布資料」、別添資料4「第1回人づくり・自然環境専門部会配布資料」を事前にお配りしている。</p> <p>本日席上に、報告資料1の9～17ページ(事前送付資料の差し替え分)、報告事項2の当日追加資料1と2、第2回地球温暖化対策専門部会と第2回人づくり・自然環境専門部会をクリップでとめたもの、「地球環境フェア2016」(5月28、29開催予定)のリーフレット及び地球環境フェアで実施するフードドライブのパンフレット、「地球環境フェア2016」PR用ポケットティッシュ、また第4回環境審議会議事録を配付した。</p> <p>資料の不足があれば事務局まで申し出ていただきたい。</p>
会長	<p>審議事項1「第三次足立区環境基本計画の体系案の一部修正について」審議を開始する。事務局から資料の説明をお願いする。</p>
事務局	<p>審議会資料1ページ、前回体系案についてお示ししたが、専門部会等の意見を踏まえて若干修正を加えたい。1「人づくり・自然環境専門部会における意見による修正案」の「学び考え行動する『人』」で「環境問題を正しく理解し、解決に向け」を「地球環境を意識して、未来のために」に修正した。</p> <p>「(2)柱立てについて」の4で「生物や自然への理解を深め」を「ひとと自然が相互に関わっていることを認識し、多様な生物と共生できるまちをつくる」に修正した。</p> <p>2ページ目、基本構想と調整を図るために、「環境の視点から目指す将来像」を「環境の視点から目指す姿」に変更した。前回の環</p>

	<p>境審議会において、「ひとと活動を支える区」のところで、区は以前から率先して事業をやってきたので、この体系案にも率先して行なうということを明記してほしいという要望があった。計画書において明記する。</p> <p>3ページにこれらを修正したものを示し、修正個所に下線をつけたのでご確認いただきたい。</p>
会 長	<p>専門部会の意見を受けて、3ページに若干の文言の修正をしたものを示したのでご審議いただきたい。</p>
委 員	<p>1つ目の視点について、「地球環境を意識して」という表現になっているが、いかがなものか。「意識して」には「気にかける」という意味もある。</p> <p>もう一点、3ページの体系(案)の4つの視点は、「 」をつけて視点を明確化しているが、4番目のみ「ひと」と「区」の両方に「 」がついているのでわかりにくい。4つの視点は『 』にしたほうがわかりやすいのではないか。</p>
会 長	<p>「地球環境を意識して」よりも、もっと主体的な「地球環境を踏まえて」「目指して」「考えて」等の表現がよいというご指摘であろうと思うので、事務局と相談したい。</p> <p>もう一点は、4つの視点の「ひと」「暮らし」「まち」「区」を強調するのであれば、『 』等の別の符号で整理したほうがいいのではないかというご指摘であろうと思う。</p> <p>今のご指摘を踏まえてもう一度整理して審議会の意見としたい。</p> <p>審議事項2「第三次足立区環境基本計画の施策体系案について」に移りたい。次の報告事項も重複するので、報告事項も含めて事務局に説明していただき、一括ご審議をお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料4ページ、体系案について、図で示しているように現行計画では「6つの柱」「主な取組み」「取組み内容」の3段階で策定している。第三次基本計画では、「5つの柱」「施策群」「施策」「具体的取組み」の4段階に構成にしていきたい。5ページに現行計画と新計画の対比の表を掲げた。これだけでは施策群の下にどんなものがぶら下がるかわからないので、6ページ・7ページに施策を体系化するための検討項目として、それぞれ複数の施策の例示をした。この例示を参考に議論していただきたい。8ページに重点施策を挙げた。また、施策群ごとに目標・指標を設定して管理をしたいと考えている。目標が数値化できる場合はそのまま指標とし、定性的な場合はぶら下がる施策に数値化した指標を付けるということで、柔軟</p>

に考えられるのではないか。

関連して、報告事項1「第二次足立区環境基本計画の取組み状況について」(当日、差替え分)で説明をさせていただく。新計画にフィードバックするために現行計画を見直した。現行計画は47の指標を数値化して進行管理している。平成26年度指標は昨年11月の審議会で報告した(事前配布別添資料1)。27年度についても集計が済み次第報告する。10ページから第三次基本計画策定にあたって、「現時点の取組み状況」の効果、改善点・課題を整理した。上位計画である区の基本計画が現在並行して作成されているので、現時点で方向が定まっていないものがある。は効果のあったもの、は改善点や課題の挙げられるものである。

10ページから現行計画の柱立てに添って整理した。

「(1)地球温暖化・省エネルギー対策」の「1 省エネルギー行動の継続と拡大」では多くのイベントやキャンペーンを実施し、多くの方にイベントに参加していただいている。省エネハンドブック等配布し、日常生活での取組みをわかりやすく周知したと考えている。ただ、イベントに参加した区民がその後どの程度に省エネに効果があったかわからない。これまで以上に日常的な実践行動への移行を促す取組みが必要。関連指標として区内の電気使用量とイベント参加者数を挙げた。「2 再生可能エネルギーや未利用エネルギーの利用促進」の2番目のは「他の地域との連携」と記載していたが、わかりにくいので具体的に「友好都市との連携」とした。「5区施設や区の事業での率先的な取組み」の「職員の率先行動」を「省エネ等の職員の率先行動」に訂正した。2番目の自治体連携の一環としてカーボン・オフセットを実施しているが、浸透していない。取組みの内容や区民等への見せ方に工夫が必要であることが反省点として挙げられる。

12ページ「(2)循環型社会の構築」の「1 3Rの推進とごみの減量」で、最初のの「3Rは浸透が進んでいる」を「3Rは一定程度浸透している」とした。第44回足立区政に関する世論調査では「ごみと資源の分別を実行している」は87.8%とかなり高い割合を示していることで、PRが一定程度浸透しているのではないかと考えている。また、「2 資源化の推進」でも、「家庭ごみ、事業系ごみの資源化は、計画事業を着実に実施していて、十分な成果が得られている」は、燃やさないごみの資源化率92.2%というかなり先進的な取組みをしていることから、「家庭ごみの資源化を着

	<p>実に実施しており、取組みの効果が表れている」という表現と補足をした。</p> <p>13 ページ「(3) 健康・安全なくらしの確保」の「1 工場・事業者等への公害規制指導」は「より効率的・効果的な指導や苦情相談が行えるシステムが必要となっている」だったが、台帳をシステム化して情報共有したいということで、「より効率的・効果的な指導や苦情相談を行うために台帳のシステム化が必要となっている」に文言を修正した。「3 大気・水質・空間放射線量等の定期的な測定」に で空間放射線量については、計測値が安定していることから、測定体制の見直しを予定している」とあったが、実際には放射線量は再度測らなければならない状況が出てきているので、削除した。</p> <p>14 ページ「(4) 人と自然の豊かなふれあいの創出」の「2 自然にふれあい、学ぶ機会の提供」で「実践への移行支援などについて、課題がある」とあったが、何の実践かわかりづらかったので、「自然環境や生きものを大切に作る実践行動をどのように支援していくか、課題がある」に文言修正した。次の の「保全に対する機運」をわかりやすくするために「自然環境保全に対する機運」とした。</p> <p>15 ページ「(5) 環境に配慮したまちづくり」の「2 良好な景観の保全と創造」で、3 つ目と4 つ目は だったが、既に着手している部分なので にした。</p> <p>16 ページ「(6) 環境を学び、実践の輪を広げる」の「1 自主的な活動を促すしくみと活動の場づくり」の「活動拠点としてリサイクルセンターの運営を行い、一定の利用者があった」を「活動拠点の1 つとしてリサイクルセンターを運営し、自主的活動の場の提供等を行っている」に直した。17 ページ「2 環境教育の充実」にある「出前講座の派遣件数が増加し、浸透してきている」は「3 地域で先導的な役割を担う人材の育成」に入っていたが、上に移した。</p> <p>審議事項2 と報告事項1 は以上である。</p>
会 長	<p>今大きく分けて2 つのご紹介があった。まず、資料4 ~ 8 ページは第三次基本計画の体系案として、5 つの柱と柱ごとに施策群という中柱があり、その中柱ごとにさらに具体的な施策が立っている。例えば、一番上に「身近な省エネ対策の促進」があるが、この下にさらに具体的な取組みということで事業やキャンペーンが出てく</p>

	<p>る。つまり、施策群の中柱に目標を置き、個別施策のところ特に重点的なものを中心に指標を置くというかたちで目標管理をしていきたいという考え方である。</p> <p>二番目は、今までの取組み状況の総括を丁寧に整理していただいた。ここは今後どういう施策を盛り込んでいくかに関わるので、時間をとって意見交換したい。</p>
委員	<p>6 ページ (1) 「エネルギーの効率的な利用」の 2 つ目「高効率なエネルギー設備・住宅等の普及促進」となっているが、具体的に「省エネ機器の普及促進」という表現を入れたほうがいいのではないか。「身近な省エネ対策の促進」等ではあまりに漠然としている。</p> <p>また、「設備・住宅の高効率エネルギー」というともっと大きなイメージがあるが、区では LED 電球の促進等の活動もしている。</p>
会長	<p>これは温暖化専門部会でも議論になったのではないだろうか。百田委員から説明していただきたい。</p>
副会長	<p>表現はともかくとして、それは重要な項目として取り扱っている。具体的な施策の部分でどのような表記をするか後ほど資料の説明があるかと思うので、そのときに含めてお話ししたい。</p>
会長	<p>専門部会資料でも説明があるが、場合によっては柱立ての表現を見直すこともあるかと思う。</p>
委員	<p>10 ページ「エネルギーの効率的な利用」の「住宅等の普及促進」は、どういった住宅が促進されるのだろうか。家庭から出る CO₂ の排出量が微増しているのは、単身世帯が増えていることに起因するのではないかと言われているが、二世帯、三世帯住宅を推進することも環境施策になるのではないか。住宅のみではなく暮らし方も提案していくものなのだろうか。</p>
副会長	<p>これは横断的な課題になっていくと思う。国の省エネ対策は国から相当厳しく言われている。したがって、ここも含めてどういう表現にするかということも部会で検討中である。</p>
会長	<p>後ほど専門部会の紹介でもその話題が出る。今、委員から住まいというソフト面の話が出たが、ここで意図しているのはハード面の「設備・機器や高効率住宅だろうと思われる。</p>
委員	<p>施策群としてどこに入るのかわからないものが 2 点ある。1 点目は、昨年国会で成立した都市農業振興基本法は従来のもので大きく変わって、環境の視点や消費者が土と触れ合ったり、地産地消という角度からも各自治体が計画を作ることを求めている。足立区は 23 区内でも農地が多い。いま足立区の農業者たちは連携してさま</p>

	<p>ざまな取組みを進めている。農地は単に緑地保存だけではなく、環境の重要なファクターなので、施策群として位置づけられる内容があるのではないか。</p> <p>2点目、前回は申し上げたが、公共施設等の木質化問題は5つの柱立てのどこに入るのだろうか。間伐材の有効活用や温暖化対策として、木造の公共住宅も増えてきていると聞く。これはどこに位置づけられるのだろうか。</p>
会 長	<p>多方面に関係しそうだが、なかなか位置づけにくいかもしれない。</p>
事務局	<p>1点目の都市農業に関しては産業振興計画の策定と調整したい。</p> <p>2点目の木質化については、今の計画には全く出てきていない。今のご意見を踏まえて整理させていただきたい。</p>
委 員	<p>前回は申し上げたように、環境基本計画は基本構想のもとに行政と区民が共に考えるものである。環境以外の人づくりや教育の分野にも広がっている。私も都市農業を産業振興計画に入れていくことは認識しているが、やはり環境の視点からもぜひ環境基本計画に取り組んでいただきたい。部署や所管が違うということではなく、環境にかかわるものがきちんと集大成される計画にさせていただきたいと思う。</p>
事務局	<p>今後庁内の検討会議を開いていくので、その中で入れ込んでいきたい。</p>
会 長	<p>私は「人づくり・自然環境」の専門部会に出ているが、水と緑地の話はたくさん出たが、農地の話はあまり大きく出ていないし。明示的に中柱になることにはなっていないので、それは意識していきたいと思う。</p> <p>2点目の区の木質化の話は、広い意味ではバイオマスの活用で、CO₂ 吸収・削減対策にもなる。つまり、木材を多用することは CO₂ の固定化をもたらす。あと自然循環の観点、教育・意識の面、区の率先行動の面もあるので、多面的に位置づけできるように思う。ただ、これといった決め手がないので、事務局と知恵を絞っていきたい。</p>
委 員	<p>会長から水の話が出たが、水に関しても大きな法律が2つできた。1つは水資源と水循環で、もう一つは雨水である。ここには検討項目に「雨水流出抑制」と書いてある。雨水は流出抑制だけではなく、防災対策や洪水対策として活用が進んでいる自治体もあるので「流出」以外の表現を検討してほしい。</p>

会 長	6、7ページ「2.循環型社会の構築」と「3.安全安心で快適な暮らしの確保」は専門部会の所掌から外れているので、ご指摘はありがたい。
委 員	<p>「3.安全安心で快適な暮らしの確保」の「(1)生活環境の保全と公害対策の推進」の中の「公害苦情への適切な対応」は、自動車の排気ガス等を想定しているのか。また、「(2)美しいまちづくり」の「地域の個性を生かしたまちづくり」は、それぞれの地域によって違うと思うが、どのように考えているのだろうか。</p> <p>「5.学びと行動のしくみづくり」の「(4)環境活動を広げるネットワークの構築」で「世代を超えた区民の対話と連携の場づくり」とあるが、どのような場づくりをしていくのか知りたい。</p>
会 長	ご質問が3点あった。事務局から答えていただきたい。
事務局	1点目の公害苦情のトップは、騒音と振動、悪臭等である。そういったものへ適切な対応をしていく。
委 員	集合住宅等の苦情が多いのだろうか。
事務局	もともとは工場や事業の苦情から始まっているが、最近はカラオケ、飲食店の深夜営業が増えて近隣関係における苦情が多くなった。
委 員	それに対する騒音等の規制はあるのだろうか。
事務局	基準を超えている場合は、生活環境保全課で指導したりお願いをしたりしている。
会 長	2点目の「地域の個性を生かす」についてはどうか。
事務局	例えば区画整理が終わっていない地域については、その事業に合わせて環境に配慮したまちづくりをし、緑を増やしていく。あとは建築時に指導していく。商業地域と農地では当然指導が違う。環境整備基準等々をもとに環境に配慮したまちづくりに誘導していくことを書き込んでいきたい。
委員	佐野地区は住宅の区画整理をしている。加平へ入る左側、高速に入るところはどうなっているのか。
事務局	六町のところだろうか。あれは区画整理事業をやっている。確かに高速に入る手前は整地されてどンドン区画整理している。
会 長	3点目の世代の連携に関してはどうか。
事務局	同じような世代だけが集まると情報が一定化するのので、高齢者と小学生・中学生等、世代を超えて対話することで多世代が住みやすい環境に配慮できるので、このような表現にした。

会 長	今はやや抽象的な言葉になっているのでイメージがわきにくいかと思うが、ここに具体的な施策や事業が加わればイメージしやすくなると思う。
委 員	16 ページ「(6) 環境を学び、実践の輪を広げる」の「活動拠点の1つとしてリサイクルセンターを運営し、自主的活動の場の提供等を行っている」とある。私は近いのでたまにリサイクルセンターに行くが、最近は利用率が低いようである。場所的に遠くの人が来られないが、特定の高齢女性しか使っていないのもったいないと思う。
事務局	確かにリサイクルセンターは、昼間の利用者が少ないように感じている。実際には、利用登録をした団体が優先して使っているが、団体そのものも多くない。活性化は非常に大きな課題である。講座そのものはだいぶ増やしたので利用人数はかなり増えている。前からニーズが高いものは継続しているし、新しいものに入れ替えたり、若者向けに工夫したりしているが、やはり交通の便があまりよくないので、遠い方が利用できない。現段階ではなかなか変更できないが、今後の利用方法を考えたい。運営している指定管理者が今年度で終わり、新しい運営事業者を今年度公募するので、ご意見も踏まえて要望も入れながら運営に力を入れていきたいと考えている。
委 員	私は利用している側で4年目になるが、月に2回講座を持つことができない。月に1回では目的を達成できない。なぜ月2回持てないのか。
事務局	リサイクルセンターは事業計画で指定管理者に任せている部分もあるが、ご意見をいただいたときに断るべき理由がなければ受入れられるように要望している。感じていることがあれば環境政策課にお越しいただければ、可能だと思う。
委 員	12 ページ「2. 資源化の推進」で、家庭ごみの資源化率が92.2%となっている。足立区の家庭の努力は素晴らしいと思うが、粗大ごみで一番多いのは布団だと聞いているので資源化に取り組んでいただきたい。 また、前回の審議会でも出た食品ロスの削減問題は家庭でもできる重要な取組みである。近く地球環境フェアで初めてフードドライブが行われるが、普及啓発に取り組んでいただきたいと思う。
事務局	昨年は足立区内から7万件の布団が粗大ごみとして出された。粗大ごみで最も多いのが布団で、次が家具だが、家具はリサイクルを

	<p>始めた。布団に関しては何ができるか検討中である。</p> <p>また後ほど宣伝させていただきたいが、昨年の調査ではごみ全体の約4%(年間5千トン)が未使用食品であった。そういうものをなくすように一生懸命取り組んでいきたい。</p>
会 長	<p>ぜひ区で工夫して布団のリサイクルを始めていただきたい。</p> <p>今いろいろご指摘があった現行計画の評価は、10ページ以降に(効果)(改善点)(課題)で表わされている。ところどころには「以下の施策は未着手」という項目がある。項目に掲げたにもかかわらずできなかったということなので「未着手」はよろしくない。「未着手」の項目は原因を分析しておく必要がある。より精査していただきたい。</p> <p>現行計画には「未着手」の項目もあり、十分に改善や改良、進展が図られていない項目もある。それらを考えながら第三次計画の中に事業あるいは優先課題として位置づけていく整理を事務局としていきたい。今日はその意味でこの資料をご用意した。では、必要があれば戻るので先に進む。</p> <p>報告事項2「専門部会における審議経過について」に移る。事務局にお願いしたい。</p>
事務局	<p>「地球温暖化対策専門部会」「人づくり・自然環境専門部会」は本日までに各2回ずつ部会を開いた(開催の状況、内容は18ページに記載のとおり)。19ページに、その中で出た主な意見を整理した。「(1)第1回地球温暖化対策専門部会」では、足立区内の温室効果ガス排出量の現状と将来予測について、区として影響が及ぶ範囲の事業を考えるべきだという意見が出されている。また、主要課題の検討では、温暖化対策事業は予算で左右されるので、上位計画に踏み込まないと環境部門で事業範囲が狭まる可能性がある。足立区基本計画にもきちんと盛り込んではどうかという意見があった。自然に浸透する対策もあるが、区としてプッシュできる点があれば実施すべきである。温暖化対策だけの施策は実施されないので、防災や福祉等、横串を挿した部分でメインストリームに踏み込んではどうかという意見があった。新たな削減目標・指標についてですが、電気ガスの自由化によって電気ガスの実績データの提供が困難になったので、これに頼らない目標を掲げてはどうかという意見があった。これについては次回以降の審議会でも議論いただければと思う。</p> <p>20ページ「(2)第1回人づくり・自然環境専門部会」「人づく</p>

りのあり方について」、区民の環境リテラシーの増加についてデータベースがあれば、それが指標にできるのではないか。取組みの現場における自治体のニーズと市民のニーズのずれに留意すべきである。樹木の保全に関しても意見が分かれる。そういった意味でも人づくりは非常に重要である。保育園では四季を感じる体験が必要。日常生活だけでは限界があるので、場と機会を作ることが必要である。企業への働き掛けが重要である。

「自然環境・生物多様性保全のあり方について」は、体験型農園はコミュニケーションが取れる場として重要。区内の自然環境に関する基礎データが必要。調査は市民参加型で行うことによって多くの区民が参加できる。行政のデータベースはあまり機能していないという指摘があった。新宿区のように子どもが公園の設計に参加する試みも実施を検討してほしい。樹種選定や樹木管理も生物多様性を意識してはどうか等の意見があった。

本日席上に当日追加資料「専門部会による審議経過について」をお配りした。当日追加資料1は、第2回地球温暖化専門部会での検討内容で、CO₂排出量推計の説明を記載した。手順で現状から追加的対策を行わないケース(BAU)のCO₂排出量を算定した場合(下図の水色部分)、手順は国の積算根拠のもとに足立区内の業種別に按分した場合のCO₂削減シミュレーション(下図の点線部分)である。手順としてそのCO₂削減率をもとに足立区のエネルギー消費削減目標を策定する。手順は第3回専門部会で話し合う。

国の積算根拠の対策は表1に、「産業」「家庭」「業務」「運輸」の4部門に分けて、それぞれ対策項目、対策例にまとめた。このことで、国は家庭部門を40%減らすといった部分の削減を量示している。

次に、裏面のシミュレーション部分を見ると、2013年のCO₂の排出量は255万8,000トンだが、の何も対策をとらない場合は2030年に3万4,600トン(1.4%増)、ただしの国と連動して対策を進めると39.2%削減できる。とを足すとトータルで37.8%のCO₂が削減できる。これが国の対策を足立区に置き換えた場合のシミュレーションである。その下の図はそれを増減で表わしている。水色が何も対策を取らなかった場合だが、産業部門は減り、家庭部門は18万2,100トン増える。業務は9万3,000トン増える。運輸部門は17万1,800トン減る。国の省エネ対策(緑色)をすると52万1,800トン減る。電源構成のCO₂排出係数が改善されると、47万

	<p>9,700 トン減るので、合計で 96 万 6,900 トン削減することができる。</p> <p>「3 専門部会での主なご意見、今後の作業予定」として、シミュレーションで見込んだ削減対策を着実に進める具体的な取り組みが必要。国の対策はかなりきつい部分も含まれているので、足立区でそれが本当にできるかどうかこれから想定いかねばならないだろう。また、区民にわかりやすい形で目標を見せていかねばならないので、これらの見せ方、アピール力のある取り組みの見せ方等々も含めて今後検討しなければならないだろう。以上が第 2 回地球温暖化対策専門部会での検討内容である。</p> <p>追加資料 2 は「第 2 回人づくり・自然環境専門部会での主なご意見」である。「人づくり」の取り組みについて出てきた意見は以下のとおり。重点施策は決定すべきである。主体が明確なものは重点施策の選定の視点として採用するとよい。指標・目標の設定には短期・中期・長期の視点が必要。人づくりの取り組みの施策群の展開はよい。既存の美化活動など地域ネットワークを活用する視点も必要。あだち環境ゼミナールをより魅力的にするために座学以外のメニューを増やしてはどうか。階層を意識してリーダーを育てる。環境マイスター認定後のプログラムを用意しないと活用できないのではないか。</p> <p>「自然環境保全」の取り組みについては、公園作りの企画段階から近隣住民に参加してもらってはどうか。公園管理は生物多様性の認識を持ってもらうと効果的。荒川ビクターセンターがもう少し活用できるとよい。実態の把握と効果的な対策の検討のためにデータの蓄積が必要である。区民視点で調査することが大事である。認識度を高めるために、小学 4 年生の「環境スタートブック」という副読本に生物多様性の記述を入れてはどうか。生物多様性を理解するためには人間も生態系サービスに支えられているという理解が必要。以上である。</p>
会 長	別添資料の「第 1 回専門部会」はどこにあるのか。
事務局	事前に郵送している。「第 2 回専門部会」は郵送が間に合わなかったので本日机上配付した。
会 長	別添資料の説明は省略する。18 ページ以降の全体まとめの資料ということで提示されている。温暖化部会に関して、百田委員から追加があれば補足をお願いする。
副会長	目標の考え方として、将来どうなるのかということを一生涯懸命や

	<p>っている。その出てきた数値をもとに今後どういう設定をしていくか。あとは見せ方をどうしていくか。先ほどの話にもあったが電気自由化で今後は電力量が不透明になる。そういう中で目標値自体をどのように設定するか。部会の中では、各家庭が光熱費を 1,000 円落とすというレベルの話まで行くのか。それとも電気の話をしていくのか、といったことを議論している。どちらかということ、目標値がいくつかという話を超えて、その目標値を達成するためにどうしたらいいのかといったところまで議論が拡散しつつある。ただ、今回計算していただいた中で、産業、運輸が減っていくだろうという中で、民生が問題になる。どこを一番重点的にやるべきか、今回の検討で明るくなってきたかと思う。</p> <p>先ほど「国の思惑どおりいくと」という話になっているが、このメニューには、私から見てもこれは無理だろうというものも入っている。期待値が相当入っているので、区としてはどう考えていくか議論を進めている。</p>
会 長	<p>温暖化対策専門部会についてご説明と補足をいただいたので、まず温暖化対策専門部会についてご意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>「町内会や自治会、企業などの環境担当に対してのプログラムもあっていい」とあるが、私は町会連合の環境部にいるが、昨年 1 月に清掃工場を見学に行った。今年も環境部として何か取り組む必要を考えている。</p>
会 長	<p>温暖化対策専門部会関係でほかに何かあるだろうか。</p> <p>私から 2 点お尋ねしたい。1 つは、報告資料 2、当日追加資料の 1 枚目、表 1 の上に図がある。国の積算基準をもとに CO₂ 削減シミュレーションということで、各部門の対策による削減量合計として、運輸・業務・家庭とあるが、産業も入っているのかどうか確認したい。</p> <p>2 つ目は、もちろん国の施策、例えば省エネ対策、技術の普及等は全国的に行うと思うが、加えて区の実組みで加速をさせたり、あるいは上乗せをすることも考えることになるのだろう。昨年度のこのグラフで区の方はどこに入るのか。</p>
事務局	<p>産業部門の数字は入っているが、イメージ図には表わしていない。</p>
会 長	<p>イメージ図には運輸・業務・家庭しかないが、産業の枠も作ったほうがいいのか。</p>
事務局	<p>この段階では区の実組みは計算していない。</p>

副会長	実際には国の提示するものをまじめにやること自体、相当ハードルが高いが、区の実践として打ち出すには非常に弱いという部分で現在議論が止まっている。
会長	区としても、区民の設備機器に補助を出している。また、全国の資源化率は20数%に対して足立区は92%である。足立区は先進的な取り組みをしている。それもCO ₂ 削減効果に結びついていることも言わなくてはならない。国の施策に加えて区が取り組むことでさらに削減効果が上がることを示すのが重要ではないか。しかし、そもそも国の施策が過大な取り組みをしているので、現場としてはそれを実現することは、自体が相当困難だろう。
委員	国の施策を超えた区の実践とは何か。
会長	例えば補助を上乗せするといったことである。
委員	だとするならば、国の施策に併せて、区は国よりも超えた部分に取り組めば、区の施策でどう削減できたかが測れるのではないか。
委員	おそらく国の施策だといっても、自治体が決断して頑張らないと進まない課題が多いのではないか。都も同様で、都からお金が下りても実際には区がやらなければ進まない。何をどのくらいやるかを決めるのは区なので、分けるのは難しいのではないか。国と分けるよりも、一番を目指して足立区の頑張りが見えるほうがいいのではないかと思う。
会長	確かにそういう側面もある。
委員	分けるのが違うということだと、国の方針があるのでこの自治体も同じように捉えられてしまうのではないか。やはり足立区として主体性を持って、この部分は補助金等で頑張るといようにしたほうが具体的にわかりやすい。
副会長	国のやり方としては、例えば国土交通省は次に建て直すときにはこの基準以下のものは作らせないというかたちでロングスパンの世代交代で作り替えていく。経済産業省もこういうレベルのものは作ってはいけませんというように、どんどん足切りして世代交代していく。そういう中で交換を早くしていくとか、促進していくことに力を入れていくのは、足立区なりの味つけとして効果がある。
会長	国の施策は全国基準で塗り変えていくので、耐用年数が来て更新されれば必然的に古いものは落ちていく。それは足立区も他区もほぼ同じスピードだが、例えば足立区はそこに加えて特別の補助を出すことで10年更新を8年でさせていくことができる。場合によっては国がやらない施策、例えば太陽光発電にさらに補助を出すこと

	<p>もあるだろう。公共施設の木質化もあるかもしれない。</p> <p>問題は、足立区の予算を使っているのだから、「区としてはこういう独自施策をやっている」、あるいは「上乘せ施策をしている」ということを区民に見せるのはやはり行政の姿勢として大事だと思う。そういう積極的な取組みが見えるようにしたらどうかというご意見だったと思う。私も比較的それに近い意見で、ぜひ自治体としての立場もそこに上乘せしてほしい。</p>
委員	<p>こういうところで審議していても、個人が意識を持たないと駄目だと思う。例えば、環境大賞とか、電気を減らすため工夫をグラフ化するなど、コンクールの部門をいくつか作って区民を巻き込んではどうか。コンクール等をやると意識が高まり楽しめるのではないか。廃棄物を利用して商品を作るアイデアコンテスト等、たくさんあるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>コンクールではないが、2011年夏に節電が非常に求められたときに、「夏チェンジ大作戦」として、7、8月の電気量を昨年と比較して区に報告してもらい、一定以上削減した人に被災地の産品を差し上げるイベントをやったことがある。小中学生向けにはポスターコンクールを実施している。学校向けにはいくつかやっているが、大人の区民に向けたものはやっていない。</p>
委員	<p>リサイクルセンターで不要のものを使っているいろいろなものを作っている。</p>
委員	<p>娘が通っている学校は野菜くずを持っていくとスタンプが貰える。そのスタンプがある程度集まると野菜が貰える。</p>
会長	<p>本日お配りした別添資料「人づくり・自然環境専門部会」第2回の中に、省エネノート(あだち区民環境家計簿)がある。これも報告するとエコポイントが貰えて、エコグッズと交換できる。</p> <p>私から、人づくり・自然環境専門部会の補足をさせていただく。人づくり課題は「知る」「学ぶ」「行動する」「行動を広げる」という4つのステップになる。別添資料は、区の実践の現状をまとめたものである。環境学習分野の「(1)情報の発信」は「知る」、「(2)環境学習と人材づくり」は「学ぶ」である。「(3)人材活用場の提供」と「(4)ネットワーク」、つまり「行動」はまだ中身が広がっていない。「行動する」「行動を広げる」施策が必要である。そのためには町内会の活用や、企業の組織の中で環境活動を広めていただく、あるいは自治会単位の取組みを広げたらどうかという意見があった。</p>

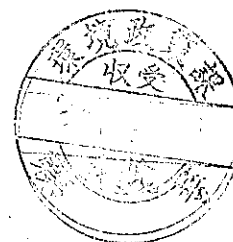
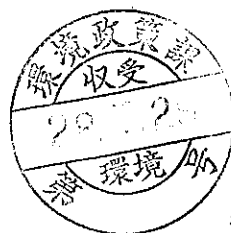
	<p>8 ページ以降は生物多様性における区の事業で、「(1) 自然環境の整備」の中には花壇、公園、緑のサポーター、緑の協力員、生物園、ビオトープ等さまざまな仕組みに取り組んでいる。ここに落ちている項目があるという指摘をいただいた。農地はここではあまり指摘されていないが、農地も大事である。農地の保全、活用があってもいいと思う。生物と触れ合う機会と言えば、自然観察会、自然教室、体験プログラム、友好自治体を活用したツアー等もある。また、生物多様性の普及啓発の3つの組み立てで、最後はガイドマップ、魚類調査、実態調査、野鳥調査といったものを行っている。</p> <p>ここでの大きな課題は、生物多様性という視点が理解を得るのに難しいことである。どのように伝えたらよいのか。この生物多様性が持つ価値や恵みをうまく伝えるリーダーを育成し、ガイドブックを整備して、生物多様性の視点からも身近な緑を守ることが大切だと伝える仕組みを考えていく必要がある。</p> <p>以上のように、人づくり分野と環境分野でそれぞれ課題があり、第3回に向けて議論を進めていくというのが現状である。この部会についてご質問をお願いする。</p>
委員	省エネノート(あだち環境家計簿)が始まってから約9年になった。私は周囲にも勧めたが、男女比はどうなっているか。
会長	データでは4,700世帯となっている。
事務局	世帯単位の登録になっているので男女比はわからない。
会長	やはり女性が多いのだろう。
委員	こういうところでいくら叫んでも、やはり女性のほうが多くなる。
委員	第1回専門部会の20ページの最後に「樹木選定や樹木管理において生物多様性を意識した取組みを展開することが考えられる」とあるが、これはどういう意味かもう少し説明してほしい。
会長	これは在来種のことではないかと思う。これは要点筆記だと思うが、どうだろうか。
事務局	この発言者は現場で公園管理をしている方で、切りたくないが切らなければならない実情があるということで、樹木を伐採する判断をするときに、生物多様性の観点からも樹木が大切なものであることを知っていれば、樹木を残せるケースもあるのではないかと、という趣旨の発言であった。
委員	区民からいろいろな意見がある。例えば、桜は花が散ったあとに毛虫が多いと言って嫌がる人もいる。

委員	2点ある。1つは樹木選定、樹木管理においては生物多様性に着目するだけではなく、新種も含めて同じような種類の植物でも環境CO ₂ 削減効果が違うことを去年のエコプロダクトで学んだ。ほとんどの方はそういう認識がないと思う。
会長	樹木の剪定には様々な論点がある。在来種を選ぶ、CO ₂ の吸収力の高いものを選ぶ等々様々な論点があろうと思う。そういうときに生物多様性の観点も意識しようということだと思う。単一種より様々な樹種が並んだほうがいいという考え方もあるようである。
委員	どういう観点で方針を持ってやっていくかによって随分違ってくる。
会長	子どもたちに啓発するには学習の中に入るのが一番いいのではないか。
会長	まだ定型的な方針がないので、そこは詰めていかねばならないという議論があったと思う。専門部会はこれで終わりとする。 最後に報告事項3「2013年度の区内温室効果ガス排出量の算定結果について」ご報告いただいて、会議を締めたい。
事務局	審議会資料21ページをお開きいただきたい。2013年温室効果ガス排出量について、「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の算定結果が出た。足立区排出量は267万2,000CO ₂ 換算トンで、真ん中の表を見ると、一番多い二酸化炭素に関しては、基準年(1990年度)比、前年度比共に減っている。増えているのはHFCs(ハイドロフルオロカーボン類)で、合計基準年比1.4%減、前年比0.7%増になっている。実は、排出係数は0.7%伸びているので、エネルギー比にするとほとんど横ばいだと感じている。 22ページは、CO ₂ の排出量を部門別に見た。家庭と業務が伸びているのが足立区の特徴である。CO ₂ の排出量は家庭・業務・自動車ですべて約8割を占めている。 それらを分析したものが23ページ「3 分野別の分析」だ。(1)製造業は工場移転等で産業構造が変化しているので、製成品出荷額が減っていることもあって排出量も減っていて、出荷額1億円あたりのエネルギーも減ってきている。(2)家庭のCO ₂ 排出量は42%伸びている。世帯あたりのエネルギーは減っているが、世帯数が43%伸びているので、全体の排出量が増えている。(3)業務についても、同様にCO ₂ 排出量全体は増えている。オフィスの平米あたりのエネルギーは84%で15%以上減ってはいるものの延べ床面積は30%増えている。工場がなくなって、その跡にスーパーマーケ

	<p>ットができたりしていることが影響していると思われる。</p> <p>24 ページ「4 電力の CO₂ 排出係数について」。電力の CO₂ 排出係数は、1990 年には 1 kWh あたり 0.380 kg であったが、2013 年は 0.522 kg と約 1.37 倍になっている。2013 年の電気使用量を 1990 年の 20% 減にしても、CO₂ 排出量は 9.9% 増加するかたちで排出係数が増えてきている。</p> <p>三フッ化窒素 (NF₃) は、平成 27 年 4 月 1 日から温室効果ガスの種類に追加された。これは CO₂ の 17,200 倍という非常に高い係数を持っている。21 ページのほかの温室効果ガスと比較すると、二酸化炭素が 1 とするとメタンが 25、一酸化二窒素は 298、ハイドロフルオロカーボン類は 17 種類あって非常にまちまちだが、高いものは 14,800、低いものは 12 だが、かなり高いものも多い。パーフルオロカーボン類 (PFCs) も数種あって 7,390 もあるし、12,200 もある。六フッ化硫黄 (SF₆) は 22,800 と非常に高い。このように CO₂ からすると少ない量でも非常に大きい CO₂ 換算になってしまうことで対策が急がれる。温室効果ガス排出量については以上である。</p>
委員	<p>HFCs は非常に増えているので、この前の G7 でも規制が決まった。これは代替フロンとして利用されている結果で、区内であれば金属加工や洗浄液として使っている方は非常に苦労していると思う。技術的に問題なく代替できるようなものができれば産業界は助かるが、精密なものを作るときにはどうしてもこれらを使うので、家庭だけでなく産業界の協力や調査も必要だと思う。</p>
会長	<p>2013 年の 97,000 トンという実態はどのように調べているのか。</p>
事務局	<p>この数字は、機械メーカーと HFCs を冷媒として使用している家庭用冷蔵庫で按分して出している。もともとはオゾン層を破壊しないためにフロンの代わりにこれが使われていた。</p>
会長	<p>1 つ 1 つの現場で、あるいは冷蔵庫・冷凍庫の回収、引取りの現場等で今後対策をしていく必要があるだろう。按分方式で出している数字なので、必ずしも正確ではないが、このぐらいの使用量あるいは排出量が出ていると思われる。</p>
委員	<p>以前この審議会でも HFCs が話題になったときに、学識者から今は別のものがどんどんできていると聞いたが、HFCs の研究や代替の実用化が進んできていることをご存じなら教えていただきたい。</p>
副会長	<p>エアコンをリードしている企業が、先行して破壊係数が低い新し</p>

	<p>い冷媒に切り替えたので、他社もついて行かざるを得ない状況である。破壊係数が低い冷媒の方向に動いていると認識していただければと思う。</p>
会 長	<p>ちょうど時間となったので、審議会の審議・報告はここまでとさせていただきます。このあと7月にも審議会が予定されている。その前に6月にもう一度、地球温暖化対策専門部会、人づくり・自然環境分野専門部会を行う。その結果はまた7月にご報告させていただきます。</p> <p>最後に、地球環境フェアの簡単なご紹介をお願いして、審議会を終わりたい。</p>
事務局	<p>来週5月28日、29日2時～4時に市役所で地球環境フェアを行う。国から展示や、子どものフリーマーケット等をやるので、興味のある方はぜひお友達を連れて足を運んでいただきたい。</p> <p>もう一枚、フードドライブのご案内がある。これについては大谷課長からご紹介する。</p>
事務局	<p>フードドライブのチラシを見ていただきたい。NPOのセカンド・ハーヴェスト・ジャパンと連携してフードドライブを行う。フードドライブとは賞味期限が近づいたり、食べないで捨ててしまう食品を持ち寄って、それらを必要としている施設等に渡す活動である。持ってきてもらいたい食品はチラシの裏面にある。賞味期限が1カ月未満のものは受け取れない。</p>
会 長	<p>新しい取組みもあるので、地球環境フェアにお集まりいただければと思う。</p> <p>以上で本日の審議の予定は終わった。委員から要望等はないだろうか。何も無いようなので、これをもって平成28年度第1回足立区環境審議会を終わる。</p>

(会議録署名)



平成 28 年度第 1 回環境審議会会議録記録署名員
(平成 28 年 5 月 19 日 開催)

会 長	田中 亮
署名委員	百田真史
署名委員	吉地八重子